

Ecola

イ・コ・ラ

No. 8

発行 2006年5月21日

アッという間に月日が流れ、新緑がまぶしい季節となりました。
皆さまいかがお過ごしですか？ 今年はいくらも5周年を迎えることとなりました。祝5周年！



イコラ編集局も高齢化が進み、今や「ぎりぎりフォーティーズ~~30~~」
この間、子どもたちも私たち親も、いっぱい成長して大きくなりました!!・・・かな？

では、これからもさらなる飛躍（某スタッフいわく“子は毎日跳んでいる”）を目指して、さあ、♪イコ
ラでん♪イコラでん♪イコラでん・でん・で・でん・でん♪ カッキーン☆

和歌山県自閉症・発達障害支援センター“ポラリス”誕生！！

ポラリスは、支援ネットワークの中心として活動するために、社会福祉法人愛徳園が和歌山県の委託を受けて設置した機関です。詳しくは、岡潔先生の“ワンポイント・アドバイス”をごらんください。



「ポラリス」とは北極星
のことで、発達障害をもつ
方やその家族、また、それ
にかかわる人たちの「道し
るべ」になりたい、という
思いから名づけられました。



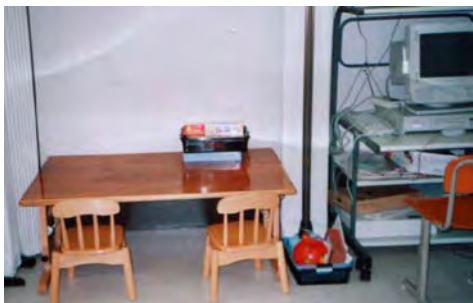
所在地：〒641-0044 和歌山市今福3丁目5番41号

愛徳医療福祉センター内

電話：073-413-3200

<http://www.eonet.ne.jp/~aitoku/po-main.htm>

※写真は、ポラリスのプレイルームの様子ですが、開所以前に撮られたものです。



ふれあいキャンプ ～大塔村～



〈参加者の方が感想を寄せてくださいました。〉

息子にとって初めてのキャンプ！少し遠いかなと心配していましたが、夜まで充分遊んで夜はぐっすり・・・、親もゆっくりでき、道中のバスの中でもお友達が出来て楽しい旅でした。いつもお父さんのお父さんも懇親会で皆さんと話したり（ビールも飲めず？）ご機嫌でした・・・こんなにご機嫌な事もめずらしいんですよ！
たくさんの元気をもらった二日間、参加して本当に良かった！
皆さん、ありがとうございました！！



こんなに楽しい
ストーンペイン
ティングの作
品ができました



田辺絵画教室の田辺恭子先生

「社団法人大塔あすなろ会」が、今回、全面的にバックアップしてくださいました。テント張り、お布団運び、そしてバーベキューについては食材等の調達・準備の全てを担当いただいたことは大きな支えとなりました。感謝の気持ちでいっぱいです。



あすなろ会のみなさん
炎天下、汗びっしょりでバーベキューを焼いてくれました♪



その他、ご協力頂いたたくさんのボランティアの皆さま本当にありがとうございました。

今年も8月5 & 6日に、“自閉症夏休み自然体験キャンプ in 百間山”が開催されま～す（＾＾）
ちょっと遠いけれど、みんなで参加して楽しみましょうね！



自閉症連続講座

今年度は、佐々木正美氏による基礎講座1、岡潔氏&救命救急士によるボランティア講座（前号でご紹介しました。）に続き、全7回の自閉症連続講座が県支部主催で行われました。また、連続講座の一環として、前ページの「ふれあいキャンプ」とともに専門家による「家族支援キャンプ」も有意義に行われました。



第3回講座・・・基礎2「高機能自閉症スペクトラムの理解」 平成17年9月17日（土）

門眞一郎氏（京都市児童福祉センター・児童精神科医師）

第4回講座・・・シンポジウム「県内の自閉症診療の実際」 平成17年10月22日（土）

川崎元氏（紀南心の医療センター名誉館長・精神科医師）

小野次朗氏（和歌山大学教育学部教授・小児神経科医師）

重里敏子氏（海南市民病院・小児科医師）

岡安勤氏（愛徳医療福祉センター・整形外科(小児リハビリテーション専門医)

紀平省悟氏（有田市立病院・小児科医師）

宮本聡氏（南紀福祉センター附属病院・精神科医師）

第5回講座・・・「これからの特別支援教育の展開」 平成17年10月30日（日）

武内正晴氏（県教育委員会県立学校課特別支援班指導主事）

津村孝幸氏（県立紀北養護学校特別支援教育コーディネーター）

浅井郁子氏（堺市立御池台小学校教師）

第6回講座・・・「高機能自閉症及びアスペルガー症候群の就労」 平成17年11月20日（日）

梅永雄二氏（宇都宮大学教育学部教授）

第7回講座・・・「自閉症・発達障害支援センター」 平成17年12月10日（土）

高野升氏（長崎県自閉症・発達障害支援センター「しおさい」）



県内の6人の医師によるシンポジウム「県内の自閉症医療の実際」の様式。この日は200名を超える参加者があり、身近な医療状況への関心の高さがうかがわれるようでした。

家族支援キャンプ

平成18年1月21日（土）～22日（日）

指導監修；宮本知佐子氏（南紀福祉センター附属病院精神科医師）

研修講師及び個別相談担当者；

宮本聡氏（南紀福祉センター附属病院精神科医師）

岡潔氏（和歌山大学教育学部附属養護学校教師）

横山達伸氏（和歌山県福祉保健部障害福祉課施設福祉班）

研修 コガノイベイホテルにて

宿泊・個別相談 南紀白浜ガーデンハウスにて

体験乗馬 田辺市立三栖幼稚園園庭にて

専門家による個別相談や研修あり。14家族（47名）が参加し、子どもたちは、40人のボランティアとともに乗馬やプール遊びを楽しみました。

マグロ解体&販売(よさこい踊りで)

2005年7月24日

♪こんなこともあったよ♪



「自閉症協会がなんでまぐろ〜??」と思われるのですが、これもお縁。 県支部会員である井上和歌山市議の紹介で出店参加させていただきました。



クッキング



親子クッキングあり、母親クッキングあり・・・おとなも子どもも食べることなら大好き！
写真は、4月25日、“手打ちうどん”クッキングの様子です。

試食中、「出会いって大事よね！」と言った方がいました。そう、年代が違ってても、子どものことをこんなにいろいろと話せるのも、自閉症の親同士ならでは、のことです。「できれば出会いたくなかった！」ってか？ まあ、そう言わんと！ 大変な中でもおもしろがって子育てしよう！ 小さい子のお母さんも来てよ！ 待ってるでゅ〜！！

手打ちうどんのつくり方

材料：薄力粉200g、水90cc、塩（入れなくてもよい）

- ① 材料をビニール袋に入れて振る。
- ② バラバラがそのうち固まるので、それを綿棒でのばして切る。
- ③ ゆでる。時間は20分ぐらい。



おいしそう〜！

今年度のクッキングは、この日以外にも7月26日（母親クッキング）、7月27日（親子クッキング）、8月10日（親子クッキング）、11月15日（母親クッキング）に行われました。

バスツアー to USJ

2005年11月3日



今年のバスツアーは参加者が多く、バス2台でユニバーサルスタジオ・ジャパンへ。USJでは早くもクリスマスモード。子どもたちだけでなく、おとなたちも忙しい日常から脱出して、ちょっとだけ異空間の一日を楽しめたのでは？ あとで「また行きたい！」との要望がたくさんあったそうです。また、みんなで行きましょうね～！！



偶然、こんな人気者にも遭遇。かわいかったわ！

講演会に参加して

自閉症をはじめ発達障害にかかわる専門職や親たちによる月1回の勉強会「自閉症・発達障害研究会」で、昨年、明石邦彦氏が講演されました。当協会会員の木下和也さんが、同じ父親としての視点から、率直な思いを寄せてくださいました。

愛徳整肢園でおこなわれた明石邦彦氏の講演会に参加しました。明石氏のご長男は徹之さんといって、自閉症ですが、川崎市の公務員です。奥さんは、洋子さんといって、著書「ありのままの子育て」で有名な方です。

はじめ、「公務員ということは、川崎市には知的障害者を特別に採用する枠があるんだな」と思っていました。しかし、そうではなく、健常者と同じ試験を受けて合格したのです。「では、高機能のIQの高い自閉症児だったのか？」と思いましたが、知的障害をもつ自閉症者でした。はじめに5年前に放映されたテレビを映写してくれましたが、「しゃべり方がうちの自閉症児の亮太とまったく同じだな～」と思いながら見ていました。

まず、誰もが抱く疑問・・・「なぜ知的障害のある自閉症者が、健常者にも難しい公務員試験に合格できたのか？」それは、一言で答えることができないご夫妻の並々ならぬ心労と情熱、取り組みによるものであることが、講演会に参加してわかりました。特に、「障害があっても地域の日常の営みの中で、普通に生活できるように」という考えのもとに努力されたことが印象的でした。「知的障害者は隔離施設で一生を終える」という考え方を打破してくれるものでした。

徹之さんの生い立ちから現在までをプレゼンテーションしてくれましたが、おのおのの年代（幼児期、学童期、青年期）の話は、父親として大いに参考になりました。今、小学校4年生ですが、そんな先のことまで考えていなかった自分を反省しました。高等学校は健常児と同じく、試験を受けて定時制高校に入学したことなど、驚くべき内容でした。毎夜、徹之さんに勉強を教えたことは大変な労作業だったろうな、と感動しました。最後に、自閉症児の父親として大事なことは「しっかりお金を儲けて家に入れること」とおっしゃいましたが、私も痛感しました。

歯科治療どうしていますか？



辻 幸代

親御さんの子育ての悩みをうかがっていると、歯医者で治療を受けることの難しさについて聞くことがあります。自閉症を持たない子どもであっても、リッパな大人であっても、歯医者好きな人は少ないと思います。なぜなのでしょう？

その一番大きな理由は痛みと不安ではないでしょうか。自閉症の人は、そうでない人に比べて感覚の過敏な人がいます。口の中であっても同じです。歯ブラシを嫌がったり、仕上げ磨きをさせてくれなかったりするの、口の中が過敏で痛みを感じてしまったり、吐き気がしたりしている可能性もあります。自閉症の人の感覚過敏の特徴は、不安やストレスを強く感じているときは、感覚もより過敏になる傾向があるということです。

歯医者に連れて行かれ、何をするのか誰も(わかるように)説明してくれず、怖い顔のお母さんが手足を押さえたかと思うと仮面(マスク)をかぶった人がのぞき込んでくる。無理矢理口の中に金属の棒が入ってきたり苦い液体を歯に塗られたり小型の

掃除機が舌に吸い付いたりするので、パニックになってもおかしくありません。

では、どうすればいいのでしょうか？障害児歯科に永く取り組んでくださっている「小畑歯科医院」におじゃましていろいろとかがってみました。

まずは、《予防歯科》です。虫歯を作らないことです。家庭でのデイリーケアと、歯科での定期検診を虫歯になる前から習慣にすると、痛い経験をしなくて済みます。デイリーケアには食後の歯磨きとフッ素洗口がおすすめです。フッ素洗口とはフッ素を微量に溶かした水で歯磨きの後に30秒から1分間くちゅくちゅします。味や臭いは(私には)ほとんど感じられませんので「くちゅくちゅぺっ！」ができればフッ素洗口できるかもしれません。さらに仕上げ磨きができれば言うことなしです。

では虫歯ができてしまったらどうすればいいでしょう。歯医者苦手な理由の一つ「痛み」についても、小畑歯科医院ではできるだけ痛みを感じないような治療の方法を探ってくれます。

歯が痛くてたまらないのに、歯医者さんへ行くのを嫌がる、治療台に座らない、口を開けない、暴れる、泣く・・・親も子も汗だく、へとへと・・・そんな話をよく聞きます。悩みの歯科治療・・・イコラ No.6 で「障害児歯科にとりくむ歯医者さん」として小畑歯科をご紹介しましたが、今回は、おなじみ辻幸代先生に歯科治療についてアドバイスをお願いしました。

ともあれ、自閉症の人が治療を受けにくい原因は「何をされるのかわからない不安」を自閉症でない人の何倍も感じているからではないでしょうか。それに加えて感覚過敏が恐怖をさらにつのらせるのでしょうか。もしも、今現在虫歯がない方は早速予防歯科に通われることをおすすめします。治療台に横になったり、口を開けてブラッシングしてもらったり(むずかしいことばかりですが)、少しずつ成功体験を積んでいきましょう。残念ながら虫歯がある人は、不安や恐怖を最小限にする取り組みに付き合ってくれる理解のある歯科医を探し、準備をしてのぞみましょう。「何をするのか」「どれだけするのか」「どのようにするのか」「どうなったら終わり」で「終わったらどうなる」のかを伝えることが必要です。そのための準備は歯科医任せでは無理があります。自閉症は十人十色、理解できる方法はみんな違うのですから。オーダーメイドの支援が必要です。

岡先生の ワンポイントアドバイス⑦

「和歌山県自閉症・発達障害支援センターとともに」

附属養護学校 岡 潔



ふれあいキャンパス
大塔村にて

自閉症や関連する発達障害のある人たちや家族が安心して地域で暮らせるよう、生涯一貫した支援の中核的な役割を担うセンターとして平成 17 年 10 月に愛徳園に開設されたのが和歌山県発達障害者支援センター「ポラリス」です。県から委託・指定を受けた唯一の発達障害者支援の専門機関です。

平成 14 年度より自閉症・発達障害支援センターが政令指定都市及び都道府県に設置され始めました。和歌山県へのセンター設置に向けての本格的な動きは、平成 16 年 1 月に開かれた情報交換会がスタートでした。協会が声かけ役となり、故橋英彌先生(和歌山大学)にご助言をいただきながら、障害福祉課や教育委員会などの行政をはじめ、医療・教育・福祉機関との連携の下で準備が進められてきました。発達障害者支援法の成立・施行という時の流れにもどり、全国でも 28 番目、近畿で 4 番目というとても迅速的な流れで開設にたどりつきました。

障害にわたる総合的な支援を目指すセンターとして、期待される支援は大きく四つに分けられます。それは、相談支援、療育支援、就労支援、啓発・研修です。開設されて一年目の「ポラリス」では主に相談支援を中心に事業が展開されています。電話一本が将来につながっていくよき出会いを創り出していかかもしれません。また、スタッフが小学校等に出かけて行つての巡回相談支援や講師派遣も行われています。「ポラリス」には、非常勤の児童精神科医も相談に当たられているのは和歌山県の強みの 1 つです。早期発見・早期支援が重要なことは誰もが認めるところです。開設されたばかりということもあり、相談者は和歌山市を中心とした福祉圏域に集中しています。広大な県域という壁はありますが、目指すところは県下全域にサービスをいきわたらせる

ところにあります。そのためには、相談を次につなげる人的資源、社会資源を養成・確保していくこと、関係機関とのネットワークを構築していくことや福祉圏域ごとの地域支援体制をつくっていくことが懸案事項です。

今年度の「ポラリス」では、特別支援教育の支援体制の充実にあたり学校等へのコンサルテーション事業を積極的に進めていくほか、学習会や母親教室など啓発・研修にも力を入れています。また、青年期・成人期の相談者の多くは未診断で、二次障害も生じているケースが多いことから、家族支援、就労支援を含めて包括的な支援が検討されています。

県民への自閉症・発達障害の理解と啓発を促していくことは、協会が目指す目的とまさしく共通するものです。また、さまざまな関係機関と連携しながら、支援の谷間をなくしていきたいというセンターの支援方針も協会会員の皆さんの強い願いそのものだと思っています。

和歌山県民 105 万人。縦に長い広域の面積をもつ県内を数名のセンタースタッフで直接支援していくのは至難のわざと思われれます。センター職員の方々も自己研鑽に励み専門性を高められています。産声をあげ駆け出したばかりの「ポラリス」です。協会会員や当事者団体の皆様をはじめとし、専門職の方々におかれましても、要望を出していくと同時に、「ポラリス」の活動に一丸となって協力・協働していきましょう！

旅人を見守り歩むべき道を示す北極星に由来して名づけられたのが「ポラリス」です。いつまでも自閉症や発達障害の人たちとその家族、関係者の希望の星となって輝いてもらいたいものですね。

家族のつどい、

2006年4月2日

ブランドウィック・ワカヤマにて

今年の家族のつどいは、“ボーリング大会”。

おとな、子ども合わせて50人が参加し、食事にボーリングに、楽しい1日をすごしました。小さいお子さんの参加も多く、担当班の班長さん曰く「ボーリングは年長の人も小さい子もいっしょに楽しめるゲームだということが新しい発見だった。」

「みんなでいっしょに楽しめること」・・・これからも、もっともつとさがしていきましょう！



ふれあい人権フェスタ2005

2005年11月19日・20日

ビッグ・ホールにて

自閉症協会が参加して、今年で3年目になりました。

話題の韓国映画“マラソン”の上映もあり、会員さんもたくさん来場されました。本の売り上げも例年より多く、相談も数件ありました。

書籍案内

- ・ 自閉症の手引き （日本自閉症協会）
- ・ 自閉症ガイドブック1～4 & 別冊 {乳幼児・学齢・思春期・成人期・海外の自閉症支援}（日本自閉症協会）
- ・ アスペルガー症候群を知っていますか？ （日本自閉症協会東京支部）
- ・ ぼくのこと・わたしのこと （社福法人めひの野園 自閉症・発達障害支援センターありそ 日本自閉症協会 富山県支部高機能部会ウィングの会）
- ・ こんなとき どうしたらいい？—アスペルガー症候群・自閉症のお友だちへ—（日本自閉症協会）
- ・ 光とともに1～9 （戸部けいこ 秋田書店）

会員割引あり！ 買ってね！



事務局からの お知らせ

☆6月25日（場所未定）に18年度の紀北分会総会を開催いたします。近々、連絡させていただきますので、ご出席よろしくお願いします。

☆18年度も、県支部＋分会で盛りだくさんの行事を計画していきたいと思っておりますので、ご理解ご協力そして皆さまのご参加よろしくお願いいたします。

（事務局） 辻野知津

編集後記： またまた遅くなってしまいました。“ぎりぎりフォーティーズ”こと、われらイコラ編集局。「最近目わるくなって」「腰痛いよな～」「もうあかんでな～」など言いながら、テンションはめちゃめちゃ上がり気味。何か止まらない、止まらない・・・。

編集スタッフ： 津田弘美 藤原昌子 辻野知津 佐々木峰子 奈良平美子 植野比呂美

《発行》イコラ編集局（連絡先）植野比呂美

新スタッフ募集中！

❁ イコラNo.8のWeb版も出しています。絵や写真などカラーで見られるので、ぜひごらんになってください。また、創刊号からのバックナンバーも（残念ながら初期の号は白黒ですが）見られます。